株式会社　十勝毎日新聞社

令和８年７月現在

業種：情報通信業
社員数：212 名



住所：〒080-8688
帯広市東１条南８丁目２
電話：0155-24-2299
FAX：0155-24-2600
H　P：https://www.tokachi.co.jp/
事業内容：新聞・広告・Web・イベント・興行

【歴史と沿革】
1919 年の創業以来「読者本位」「顔の見える新聞」を掲げ、郷土の発展に挑戦し続けています。2010 年には国内新聞社で先駆けて電子版を開始。新聞・電子版に加え CATV、ラジオ、月刊誌等を有する世界的に稀な融合メディアグループです。観光事業にも積極的に取組み、豊かな地域の実現を目指しています。

【法人内の障がい者雇用状況】

職員 212 名（常勤換算 191 名）
常用雇用障がい者数：６名
障がい者雇用率：3.14%

Interview　障がい者雇用を始めるまでの経緯

障がい者雇用について

報道機関の使命として「誰もが働くのが当たり前な社会」を自ら体現し、地域に広めることが大切だと考えています。そのためには、障がいのある方と共に働き、対話を通じて理解を深める実体験が欠かせません。
2012 年の雇用本格化当初は、現場任せによるノウハウの「孤立化」が課題でした。しかし 2019 年より「障がい者雇用促進・就労定着プロジェクト」へ参加。「だいち」との連携を深め、組織全体で支え合う体制を整えました。現在は４名が活躍しており、平均勤続年数は 16 年に達します。ジョブコーチ等の支援を受けながら、個々の特性に合った職務を創出。誰もが自分らしく働ける環境づくりを、これからも一歩ずつ進めていきます。

【障がい者別内訳】
・身体障がい　２名　・知的障がい　１名　・精神障がい　１名



株式会社十勝毎日新聞社
総務局人事部
井川　麻土香

障がい者雇用の進め方

ここが POINT！

弊社の進め方は、型にはめるのではなく「個々の特性に合わせ、職務そのものを再設計する」というスタイルです。本人の得手不得手を丁寧にヒアリングし、業務を組み替えています。
設備面の改修等も柔軟に対応してバリアフリー化を推進。対話を通じて本人の声を直接聴き、共に働く環境をつくり上げることを最優先しています。
現在は本紙のデジタルアーカイブ化や画像編集が主な仕事ですが、今後は総務系の事務職など、さらなる職域の拡大と活躍の場を創出していきたいと考えています。

株式会社　十勝毎日新聞社



制度について

トライアル　・・・トライアル雇用助成金

ＪＣ　・・・職場適応援助者(ｼﾞｮﾌﾞｺｰﾁ)

ＪＣ

勤務先：十勝毎日新聞社

障がい種別：知的障がい

所属部署：編集局デジタルセンターDB 室

採用年月：2013 年４月

雇用形態：パート

雇用までの流れ

高等養護学校より紹介

面談

実習体験



仕事の内容：過去紙面のデジタルデータ入力を主業務としている。

作業遂行スピードや正確さに優れており、職場で培った技能を競う「アビリンピック北海道大会」に出場し、パソコンデータ入力部門で最優秀賞を２度受賞した経験を持つ。

雇用の際にした配慮や体制づくりについて

集中力の持続時間に課題がありましたが、職場では好みの音楽を流し、50 分ごとに 10 分の休憩時間を設定。このリズムを定着させることで、データ入力の精度と速度を高い水準で維持できるようになりました。

雇用の際にした配慮や体制づくりについて（その他の事例）

- 時間管理を苦手とする社員には、本人が立てたスケジュールを担当社員が確認して、漏れが発生しないように声をかけることで記憶を補完し、適切な判断ができるようサポートしています。
- 身体障がいのある社員の受け入れ時には、エレベーターに車いす用ボタンの設置や、多目的トイレの引き戸を自動開閉式にする改修を行いました。
- 温度・湿度に敏感な特性を持つ社員に対しては、空調に配慮して、安定して働ける環境を整えています。

私たちは、障がいのある仲間が『働きにくさ』を感じたとき、その都度、柔軟に改善を重ねてきました。制度やシステムを先に固めることよりも、何より優先すべきは『現場で働く一人ひとりの安心』だと考えているからです。

障がい者雇用を通じて感じていること

障がいをもった社員たちがひたむきに仕事に向き合い、成果を出す姿は、他の社員にとっても大きな刺激となり、組織全体の生産性や連帯感を高める原動力となっています。障がい者雇用は特別な奉仕活動ではありません。多様な人材がその個性を活かし、当たり前に働き、地域社会に貢献する。こうした日々の積み重ねがより良い地域づくりに繋がり、報道機関としての役割を果たすための大切な力になると感じています。